Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2016年12月）

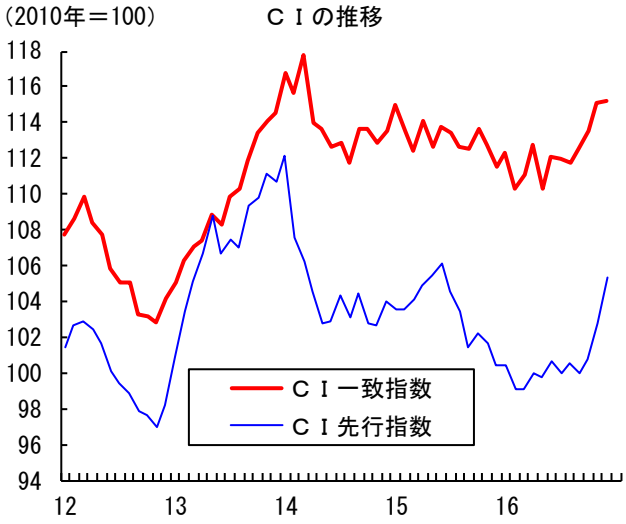
発表日：2017年２月７日（火）

～先行指数が大幅改善。１月分からＣＩ一致指数の採用系列数が９に減少～

第一生命経済研究所　経済調査部
担当　主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○景気は回復基調

内閣府から公表された 2016 年 12 月の景気動向指数では、ＣＩ一致指数が前月差＋0.1 ポイントとなった。ほぼ横ばいにとどまるが、９月が＋0.8 ポイント、10 月が＋1.0 ポイント、11 月が＋1.6 ポイントと高い伸びが続いていたことを考えると、特に問題はない。３ヶ月移動平均前月差の値も＋0.90 と大幅なプラス（５ヶ月連続のプラス）であり、ＣＩ一致指数は明確な上昇傾向にあると評価してよいだろう。これは、10-12 月期の鉱工業生産が増産ペースを加速させていることとも整合的だ。なお、12 月の内訳では、投資財出荷指数、卸売業販売額、小売業販売額などがマイナス寄与の一方、生産財出荷指数や有効求人倍率などがプラス寄与となり、全体では概ね横ばいになっている。



（出所）内閣府「景気動向指数」

また、12 月のＣＩ先行指数は前月差＋2.6 ポイントの上昇となった。内訳では、新規求人数や消費者態度指数、東証株価指数、日経商品指数などの押し上げが大きかった。これで３ヶ月連続の上昇であり、上昇幅も非常に大きい。ＣＩ先行指数は昨年夏以降、大幅に低下していたが、16 年２月頃下げ止まり、足元では持ち直しに転じている。ＣＩ一致指数、先行指数とも持ち直しの動きが明確になっていることは、景気にとって明るい材料といえるだろう。内外ともに製造業部門での回復が顕著なことや、経済対策効果の顕在化が期待されることもあり、景気は当面好調に推移する可能性が高い。

なお、内閣府によるＣＩ一致指数の基調判断は「改善」で据え置かれた（３ヶ月連続）。「改善」の定義は「景気拡張の可能性が高いことを示す」であり、景気が回復基調にあることがＣＩ一致指数からも確認されていることになる。

○ ＣＩ一致指数の採用系列が 10 系列　→　９系列に

景気動向指数では、中小企業庁が作成する「規模別製造工業生産指数」（中小企業製造工業生産指数）のなかの中小企業出荷指数（製造業）を、ＣＩ一致指数の採用系列に用いている。しかし、この規模別製造工業生産指数は、16 年 12 月分の確報（２月 16 日公表）を最後として作成休止となることが決まっている。

こうした事態を受けて内閣府が検討した結果、３月８日公表の 2017 年１月分の景気動向指数から、ＣＩ一致指数の採用系列から中小企業出荷指数を除外することが決まった。つまり、採用系列が、これまでの 10 系列から９系列に減少する。ただ、内閣府によると、９系列で作成したＣＩ一致指数においても、景気の山谷への対応性や足元の動きなどに関するパフォーマンスは現行指数と同程度のものになるとのことであり、景気判断等への大きな影響はなさそうだ。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。